

ソーシャルスタイル研修

「言動パターン」の違いと特徴を理解することで、対人対応スキルの向上を図る

本研修の概要

ソーシャルスタイルの違いをヒントに、対人対応スキルの向上を図る研修です。ソーシャルスタイルとは、周囲が認識する「個人の言動パターン」のこと。言動パターンは「思考表現度」と「感情表現度」という2つの尺度で、大きく4つのタイプに分類することができます。そして、自身と他者がどのタイプに該当するのか、それぞれのタイプにどのような特徴があるのかを理解することによって、相手を不快にさせない、円滑なコミュニケーションを実践できるようになります。

受講対象・人数

管理職層、中堅リーダー層、若手・新人層、内定者
※最大で30名程度

所要時間

3～5時間程度

プログラム例

第1章 ソーシャルスタイル理論

思考表現度と感情表現度
ソーシャルスタイルの4分類

第2章 ソーシャルスタイルの判定

思考表現度の判定項目、感情表現度の判定項目

第3章 ソーシャルスタイルのマッピング

「身近な人」をマッピングしてみる
「有名人」をマッピングしてみる

第4章 スタイル別 交渉時対応法

①接し方 ②時間の使い方 ③意思決定してもらうには

第5章 ソーシャルスタイルを活用した「話し方」

ロールプレイング①／「対上司」の話し方
ロールプレイング②／「対顧客」の話し方

第6章 スタイル別 セルフコントロール法

ソーシャルスタイル研修

「言動パターン」の違いと特徴を理解することで、対人対応スキルの向上を図る

コンテンツイメージ

本研修の目的とゴール

● 目的

対人スキルである、**ソーシャルスタイル**の大切なポイントを学び、今後の仕事・生活に活かす。

● ゴール

- 1 ソーシャルスタイルのポイントを理解する。
自分を知る、相手を知る、**相手に合わせた対応**をする。
- 2 理解したことの中で、今までなかなかやりとりがうまくいかなかった相手に対して、**自分が取り組む行動**を決める。



対人スキルとは

- あの人は…
- ・細かい人だから、きっちりの資料が必要だ
 - ・仕事の話より、まず自分が気に入られた方が話が早く進む
 - ・時間に厳しい人だから、遅刻は厳禁だ
 - ・無理強いすると気分を損ねる
 - ・どうも自分とはウマが合わない …などなど



これまでは、センスで片づけられていた領域



この研修を受講し、**自分のソーシャルスタイルを理解し、相手のソーシャルスタイルを見分ける**ことで、上司や先輩・同僚・後輩といった、社内関係者のみならず、お客様を含め、ビジネスの中で接するあらゆる人への対応が、より的確なものになります。

受講者の声

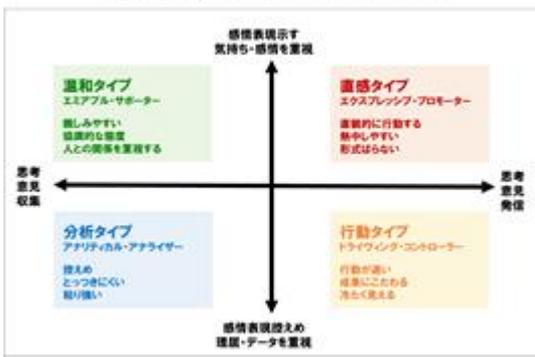
学生時代、アルバイトの職場で何となく会話がかみ合わない人がいたのですが、ソーシャルスタイルを学んで、その理由がわかりました。これまで、苦手だからと避けていた人へのアプローチの仕方がわかったので、職場のコミュニケーションでも試してみたいと思います。

自分とはタイプの異なる人がいるんだなということ、体系的に理解することができました。対人コミュニケーションについて楽しく学べたのが良かったです。職場での会話にも取り入れてみます。

ソーシャルスタイル各分類の特徴と、それに応じたコミュニケーションのポイントを学べたのが良かったです。明日からの仕事・生活に活用できる内容で、とてもためになる、楽しい研修でした。

ソーシャルスタイルという、今まで学んだことのない研修内容で、とても勉強になりました。この研修で学んだコミュニケーションのポイントを、今後仕事でもプライベートでも活かしていきたいと思います。

まわりの人たちをマッピングしてみよう！



ソーシャルスタイル ロールプレイング設定(対上司)

ソーシャルスタイルを活用して相手のタイプに合わせた話し方を行い、課長に前向きにサポートしてもらえるように話ししましょう。

ケース) あなたは事務職で、営業に關わる様々な書類の処理を担当しています。しかし、いつも提出納期に遅れたり、どこでとまっているかが分からず、ムダな確認作業を行ったという状況が続いています。各営業に態度伝えても、一向に進歩が無いため、なんとかしたいと考え、課長に相談することになりました。ムダな作業が発生している事実とそれにどのくらい毎月時間を費やしているかのデータ、今後どうして欲しいかの対策案は用意しています。課長との話で目指す重点点は、自分から伝えても効果がないので、課の取組みとして動けるように発信やフォローを含め、課長にサポートしてもらうことです。

<フクロ> ヘアになります。1人が事務役、1人が課長役です。

- 1 準備(5分)
- 2 ロールプレイング実施(8分)
- 3 共有 1. 課長役から、どう感じたか、前向きに取り組みそうか、気になった点、こうしてくれればもっと良かった
2. 事務役から実施してみている感想
- 4 交代